



「ちとせ」が変われば「みらい」が変わる

ちとせみらい通信

千歳市議会第3回定例会開催

9月20日から10月18日までの日程で、平成28年第3回定例会が開かれました。私は14日(金)の決算特別委員会において、表の項目について質疑を行いました。

1 歳入について

(1) 不能欠損処分

2 歳出について

(1) 不用額

3 水産振興費について

(1) 支笏湖産ヒメマス販路拡大等支援事業費

(2) 支笏湖産ヒメマス冷凍設備等購入支援事業費

4 千歳市決算等審査意見書について

(1) 監査による意見

1-(1)の不能欠損処分とは、自治体が予算に調定したものの何らかの理由で徴収が行えず、今後も徴収の見込みがたたないため、その徴収をあきらめることを指します。自治体が行っている債権には税の賦課や処分などに伴う公債権と私法上の契約に基づく私債権(市営住宅使用料、給食費など)があり、公債権の中にも強制徴収が行えるもの(市民税、国保料など)と行えないとされるもの(生活保護費返還金など)があります。公債権は時効期間の経過で消滅しますが、私債権の場合は本人による時効の援用か自治体による債権放棄の手続きがなければ消滅しません。この区分が一般市民には理解しがたく、また滞納処分や訴訟等の手続き、不能欠損処分までの取扱いが歳入科目ごとに異なるため、債務者からの破産申し立てに対して裁判所から免責許可が下りているにもかかわらず、一部の科目で催告書

が出続けていたり、法的措置で債権回収ができる見込みがあるにもかかわらず機会を逸失している可能性が高いのです。このような状況を解消するために債権管理条例の必要性をただしました。市も条例の必要性を認め、来年度から制定に向けて着手することです。債権管理や不能欠損に関する質疑は実際に行政で経験のある私でしか聞けない内容であると思いますので、今後もしっかり注視していきたいと思えます。

大項目3では、支笏湖産ヒメマス(チップ)のPRと販路拡大のために使われた予算に関して取り組みの成果を尋ねました。道内では古平町が町内で養殖されたヒメマスのPRに力を入れており、札幌市内での大きなイベントに出店したり、メディアなどの取材で知名度を伸ばしています。私も9月18日札幌の大通公園で開かれたオータムフェストに行ってみましたが、古平町のチップのいろいろ焼きには長蛇の列ができており、実際に食べてみても臭みもなく素直に美味しいと感じました。

昨年の8月8日に道の駅「サーモンパーク千歳」並びに千歳水族館がリニューアルオープンしました。ちょうどヒメマス漁の解禁の時期でもあり、支笏湖産ヒメマスの希少価値やおいしさを広く周知し、ヒメマスのブランド化を図るといふこの事業の趣旨に照らせば絶好の機会だったのですが、実際には何のプロモーションも行われませんでした。まさに危機感の欠如と言えるでしょう。

また、今回の予算が審議された昨年3月の「補正予算特別委員会」の答弁において、観光スポーツ部長は、「ヒメマス釣りの解禁期間が6月から8月までの3か月間に限られており、平成26年度の釣獲数約16万尾全



古平町のチップのいろいろ焼き



般の漁協への集約と禁漁期間である9月から翌年5月までの通年供給を目指す。」という内容の答弁をしています。ところが、決算での答弁を聞くと、昨年度の釣獲実績は76,906匹で冷凍庫にストックできたのはわずか714匹(0.93%)のみ！ということで、単純に率だけで見ると、16万尾の釣獲数で計算しても元々1,500匹程度にしかありません。今年度の不漁が見込み違いだったとのことですが、あまりに実数がかげ離れており、安易などんぶり勘定だったとしか言いようがありません。議会での答弁は市民への約束ですから、明確に数値で事業の成否や効果を説明するようにしていただきたいものです。

「第1回北海道現場みらい塾」を開催

地方は『末端』では無く『先端』である。10月29日に札幌の市の北農健保会館で「第1回現場みらい塾」を開催しました。今年私は構想日本とPHP総研が共催し、東京の豊洲で計4回行われた「現場みらい塾」に初めて参加しました。地方に渡る交付税が今後じわじわと減り続けていくことは明らかです。医療、福祉、教育、産業、財政など山積する地域課題に対して、座して死を待つのかそれとも臆さずに課題解決に取り組むのか。もちろん積極果敢に解決を目指すリーダー、地域のプロデューサーになり得る人財の育成を急がなければなりません。国に上って無心することしか能のない旧来型の政治家は不要です。地方創生の正しい道筋を道内の地方議員と自治体職員が共に学び、考える場として、現場みらい塾OBでもある恵庭市の柏野市議と一緒に企画したのがこの『北海道現場みらい塾』です。

当日は、一般社団法人構想日本の伊藤伸総括ディレクターと、北海道179市町村職員ネットワーク代表でもある清水町役場福祉係長 前田真さんにご講演をいただき盛況のうちに閉会しました。

伊藤ディレクターは、無作為抽出した市民による事業仕分けの実例から、徹底的な情報公開により事業の選択を住民に委ねることの重要性などについて、ほぼ3時間近くノンストップでお話いただきました。

また、前田真さんは、8月末に本道に上陸した台風10号による被害と、災害復旧の過程における行政対応の中から感じた疑問点をベースに、市民本位の自治のために政治、行政はどう動くべきかという提言を舌鋒鋭くご指摘いただきました。お二人のお話しの真意はとてここで語り尽くせませんが、地方自治の原点は常に市民本位であるべきという点で一貫していたと感じました。ご参加いただいた皆様にも真剣な眼差しで聴講いただき、今後の『北海道現場みらい塾』の展開に大きな希望を感じました。



ご参加いただいた皆様にも真剣な眼差しで聴講いただき、今後の『北海道現場みらい塾』の展開に大きな希望を感じました。



市政に対するあなたの思い、地域活性化のアイデアを是非お聞かせください。

メール：mail@kitayama-keita.com

ホームページ：<http://kitayama-keita.com>

「北山けいた後援会」では、物心両面から活動を支援して下さる方、また私の考に賛同して一緒に行動していただける方を広く募集しております。もちろん千歳市民でなくても結構です。お問い合わせは上記のメールからお願い致します。

ちとせみらい通信は私の想いを届けるかわら版です。

